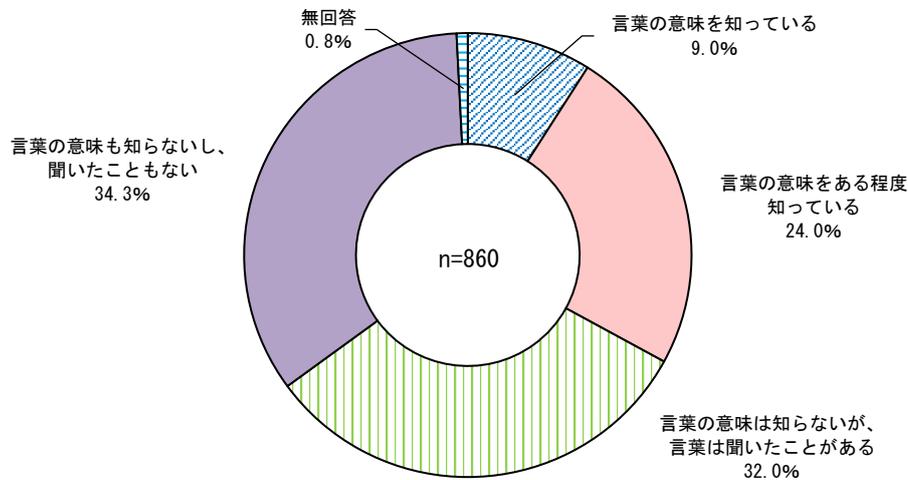


5 生物多様性の取組について

問1 あなたは「生物多様性」という言葉をどの程度ご存じですか。
次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「言葉の意味も知らないし、聞いたこともない」(34.3%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「言葉の意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」(32.0%)、「言葉の意味をある程度知っている」(24.0%)の順となっている。

【圏域別】

「言葉の意味も知らないし、聞いたこともない」については、十勝連携地域(40.0%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域(37.1%)となっている。「言葉の意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」については、道南連携地域(37.1%)が最も割合が高く、次いで道北連携地域(32.4%)となっている。

【人口規模別】

「言葉の意味も知らないし、聞いたこともない」については、人口10万人未満の市(37.4%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(36.2%)となっている。「言葉の意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」については、人口10万人以上の市(33.0%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(32.9%)となっている。

【性別】

「言葉の意味も知らないし、聞いたこともない」については、男性28.4%、女性37.9%となっており、「言葉の意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」については、男性31.2%、女性32.6%となっている。

【年代別】

「言葉の意味も知らないし、聞いたこともない」については、30～39歳(43.6%)が最も割合が高く、次いで18～29歳(40.0%)となっている。「言葉の意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」については、50～59歳(36.7%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(33.3%)となっている。

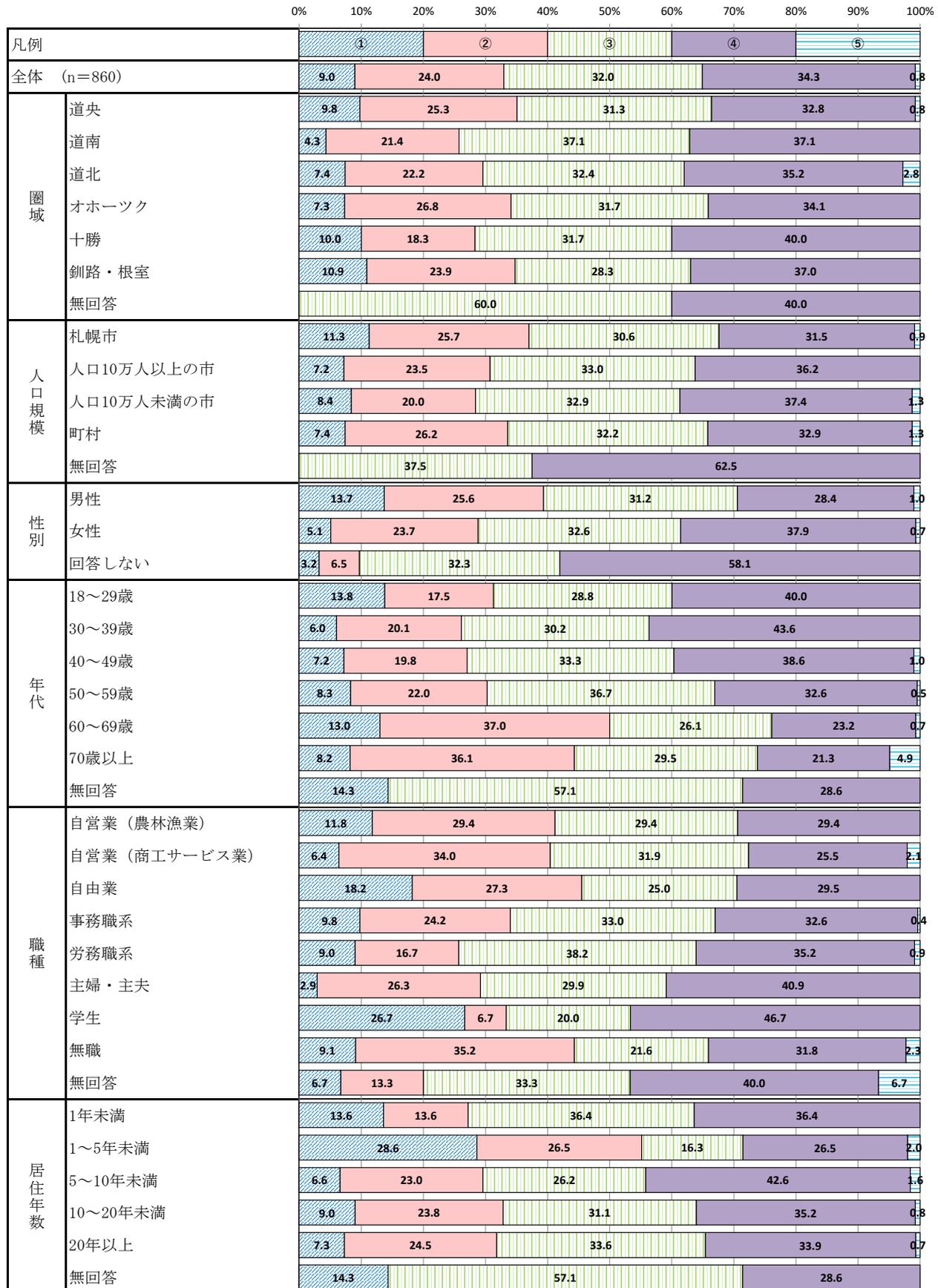
【職種別】

「言葉の意味も知らないし、聞いたこともない」については、主婦・主夫(40.9%)が最も割合が高く、次いで労務職系(35.2%)となっている。「言葉の意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」については、労務職系(38.2%)が最も割合が高く、次いで事務職系(33.0%)となっている。

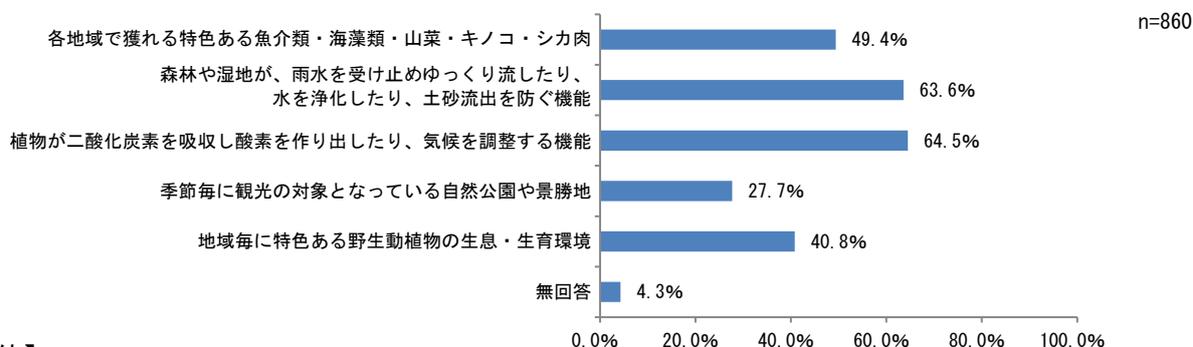
【居住年数別】

「言葉の意味も知らないし、聞いたこともない」については、5～10年未満(42.6%)が最も割合が高く、次いで1年未満(36.4%)となっている。「言葉の意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」については、1年未満(36.4%)が最も割合が高く、次いで20年以上(33.6%)となっている。

- ①言葉の意味を知っている
 ②言葉の意味はある程度知っている
 ③言葉の意味は知らないが、言葉は聞いたことがある
 ④言葉の意味も知らないし、聞いたこともない
 ⑤無回答



問2 私たちのくらしは、生物多様性がもたらす多くの恵みに支えられています。
 この恵みを「生態系サービス」と呼びます。次の5つは、主な生態系サービスの例です。
 このうち、あなたが重要と考えるのはどの生態系サービスですか。
 次の中からいくつでもお選びください。なお、該当がなければ無記入としてください。



【全体】

「植物が二酸化炭素を吸収し酸素を作り出したり、気候を調整する機能」(64.5%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「森林や湿地が、雨水を受け止めゆっくり流したり、水を浄化したり、土砂流出を防ぐ機能」(63.6%)、「各地域で獲れる特色ある魚介類・海藻類・山菜・キノコ・シカ肉」(49.4%)の順となっている。

【圏域別】

「植物が二酸化炭素を吸収し酸素を作り出したり、気候を調整する機能」については、オホーツク連携地域(70.7%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(66.7%)となっている。「森林や湿地が、雨水を受け止めゆっくり流したり、水を浄化したり、土砂流出を防ぐ機能」については、十勝連携地域(65.0%)が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域(64.9%)となっている。

【人口規模別】

「植物が二酸化炭素を吸収し酸素を作り出したり、気候を調整する機能」については、札幌市(68.2%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(63.9%)となっている。「森林や湿地が、雨水を受け止めゆっくり流したり、水を浄化したり、土砂流出を防ぐ機能」については、札幌市(69.1%)が最も割合が高く、次いで町村部(63.8%)となっている。

【性別】

「植物が二酸化炭素を吸収し酸素を作り出したり、気候を調整する機能」については、男性63.5%、女性64.4%となっており、「森林や湿地が、雨水を受け止めゆっくり流したり、水を浄化したり、土砂流出を防ぐ機能」については、男性65.2%、女性61.8%となっている。

【年代別】

「植物が二酸化炭素を吸収し酸素を作り出したり、気候を調整する機能」については、50～59歳(68.8%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(68.1%)となっている。「森林や湿地が、雨水を受け止めゆっくり流したり、水を浄化したり、土砂流出を防ぐ機能」については、30～39歳(68.5%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(67.4%)となっている。

【職種別】

「植物が二酸化炭素を吸収し酸素を作り出したり、気候を調整する機能」については、自由業(72.7%)が最も割合が高く、次いで事務職系(68.6%)となっている。「森林や湿地が、雨水を受け止めゆっくり流したり、水を浄化したり、土砂流出を防ぐ機能」については、無職(70.5%)が最も割合が高く、次いで事務職系(68.9%)となっている。

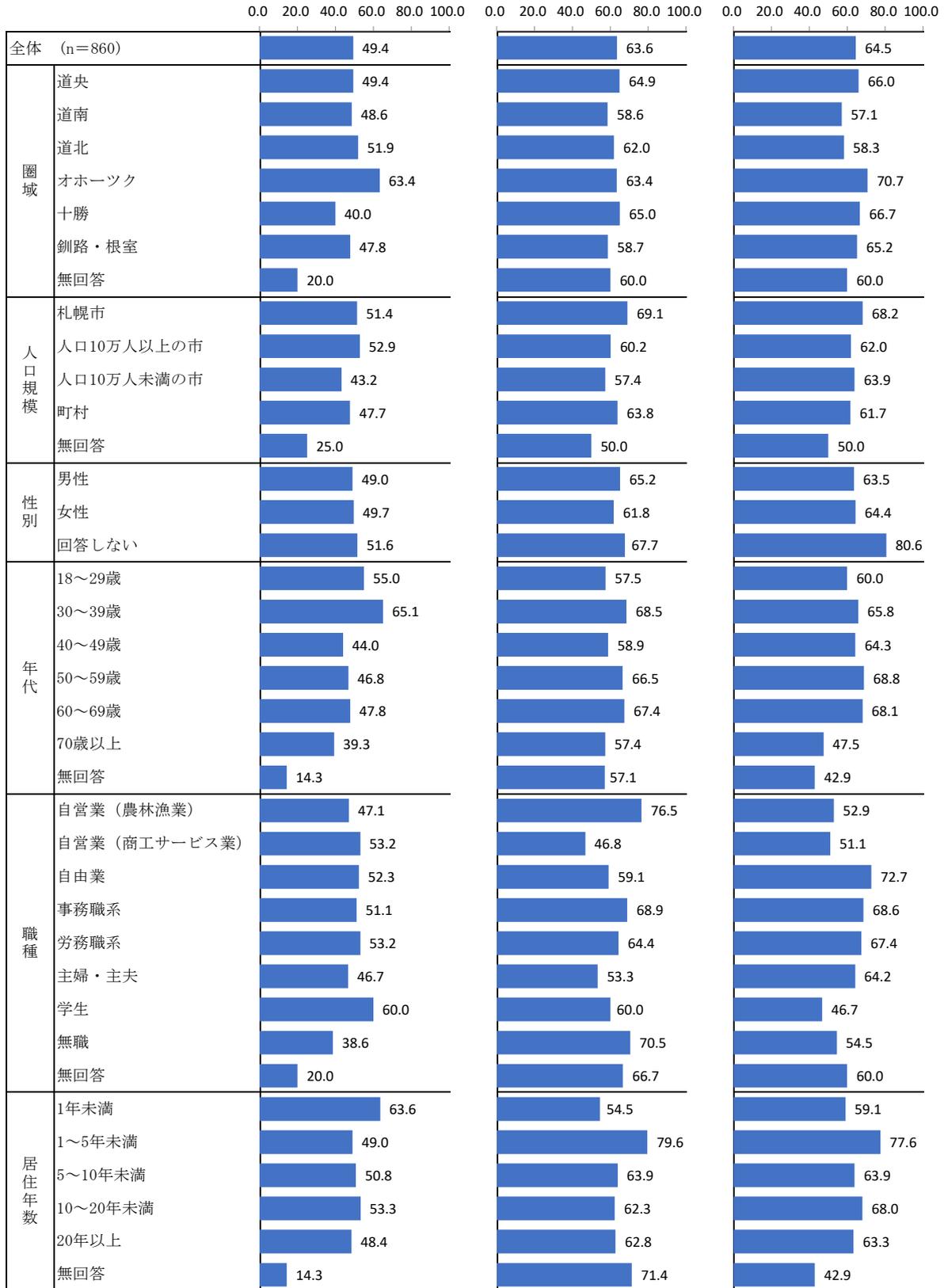
【居住年数別】

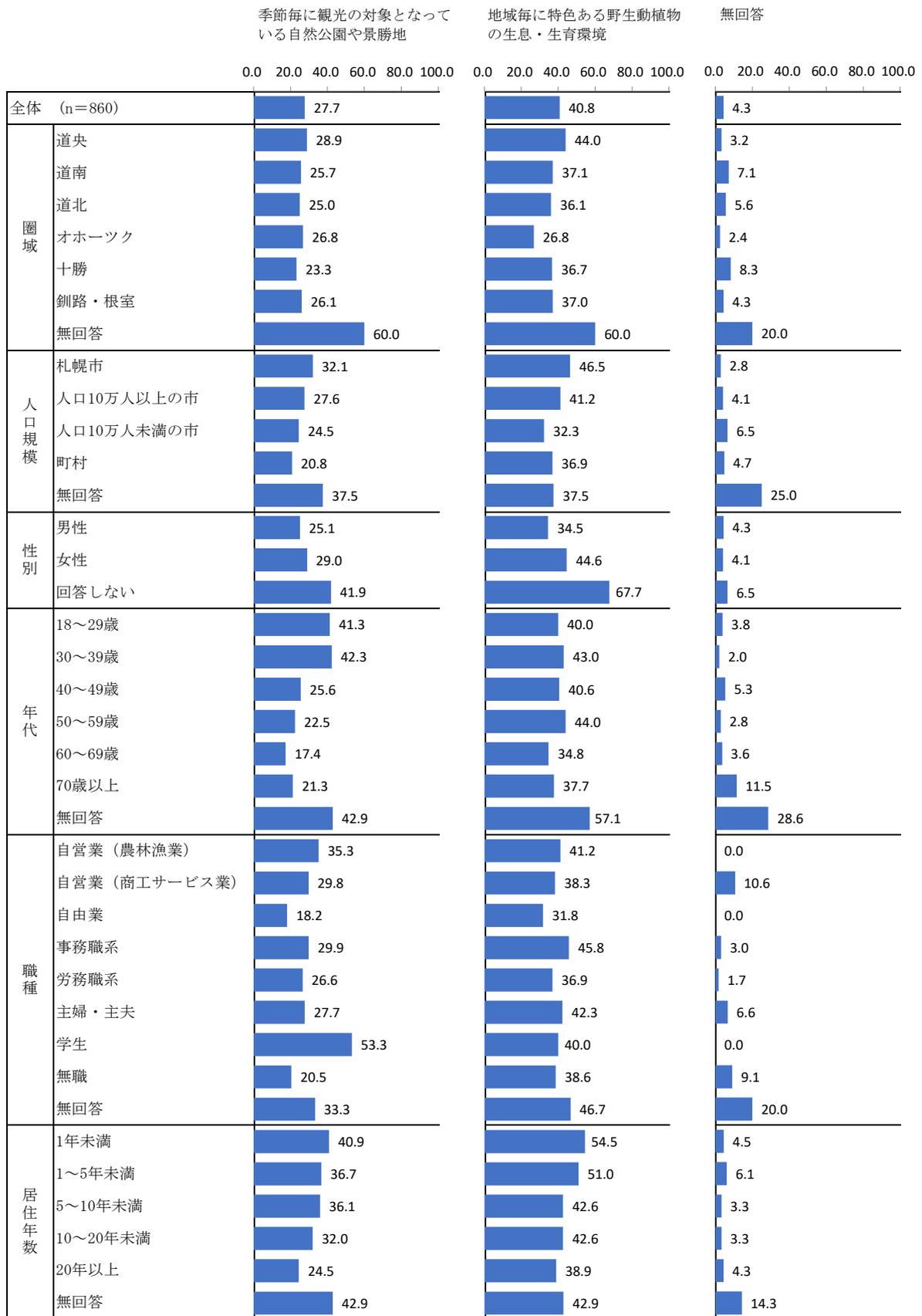
「植物が二酸化炭素を吸収し酸素を作り出したり、気候を調整する機能」については、1～5年未満(77.6%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(68.0%)となっている。「森林や湿地が、雨水を受け止めゆっくり流したり、水を浄化したり、土砂流出を防ぐ機能」については、1～5年未満(79.6%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(63.9%)となっている。

各地域で獲れる特色ある魚介類・海藻類・山菜・キノコ・シカ肉

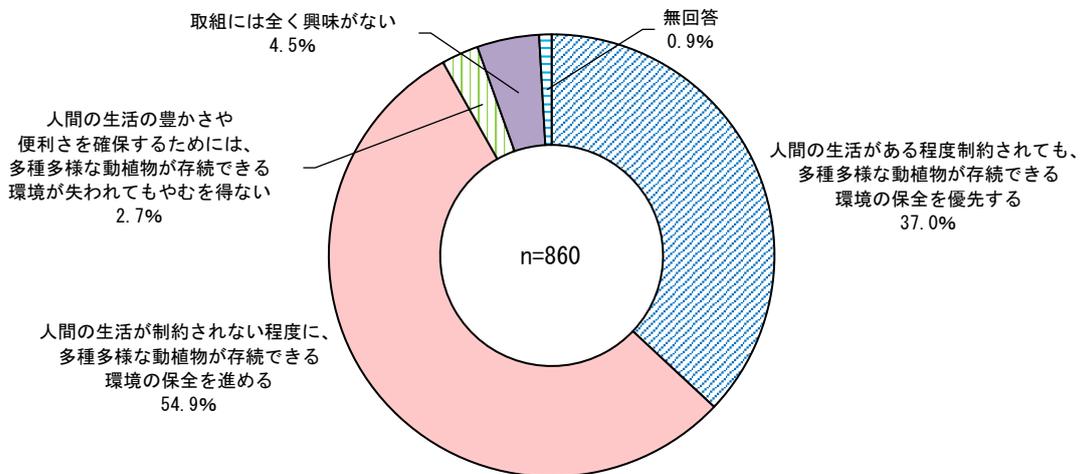
森林や湿地が、雨水を受け止めゆっくり流したり、水を浄化したり、土砂流出を防ぐ機能

植物が二酸化炭素を吸収し酸素を作り出したり、気候を調整する機能





問3 現在、地球上のさまざまな動植物やそれらが生息・生育できる環境を守る「生物多様性保全の取組」が進められていますが、あなたは、このことについてどのようにお考えでしょうか。次の中から一つだけお選びください。



【全体】

「人間の生活が制約されない程度に、多種多様な動植物が存続できる環境の保全を進める」(54.9%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「人間の生活がある程度制約されても、多種多様な動植物が存続できる環境の保全を優先する」(37.0%)、「取組には全く興味がない」(4.5%)の順となっている。

【圏域別】

「人間の生活が制約されない程度に、多種多様な動植物が存続できる環境の保全を進める」については、十勝連携地域(70.0%)が最も割合が高く、次いで道北連携地域(63.0%)となっている。「人間の生活がある程度制約されても、多種多様な動植物が存続できる環境の保全を優先する」については、オホーツク連携地域(46.3%)が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域(40.2%)となっている。

【人口規模別】

「人間の生活が制約されない程度に、多種多様な動植物が存続できる環境の保全を進める」については、人口10万人以上の市(60.6%)が最も割合が高く、次いで町村部(57.0%)となっている。「人間の生活がある程度制約されても、多種多様な動植物が存続できる環境の保全を優先する」については、札幌市(43.1%)が最も割合が高く、次いで町村部(38.3%)となっている。

【性別】

「人間の生活が制約されない程度に、多種多様な動植物が存続できる環境の保全を進める」については、男性53.6%、女性54.9%となっており、「人間の生活がある程度制約されても、多種多様な動植物が存続できる環境の保全を優先する」については、男性37.6%、女性37.5%となっている。

【年代別】

「人間の生活が制約されない程度に、多種多様な動植物が存続できる環境の保全を進める」については、18～29歳(66.3%)が最も割合が高く、次いで70歳以上(62.3%)となっている。「人間の生活がある程度制約されても、多種多様な動植物が存続できる環境の保全を優先する」については、50～59歳(45.0%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(38.3%)となっている。

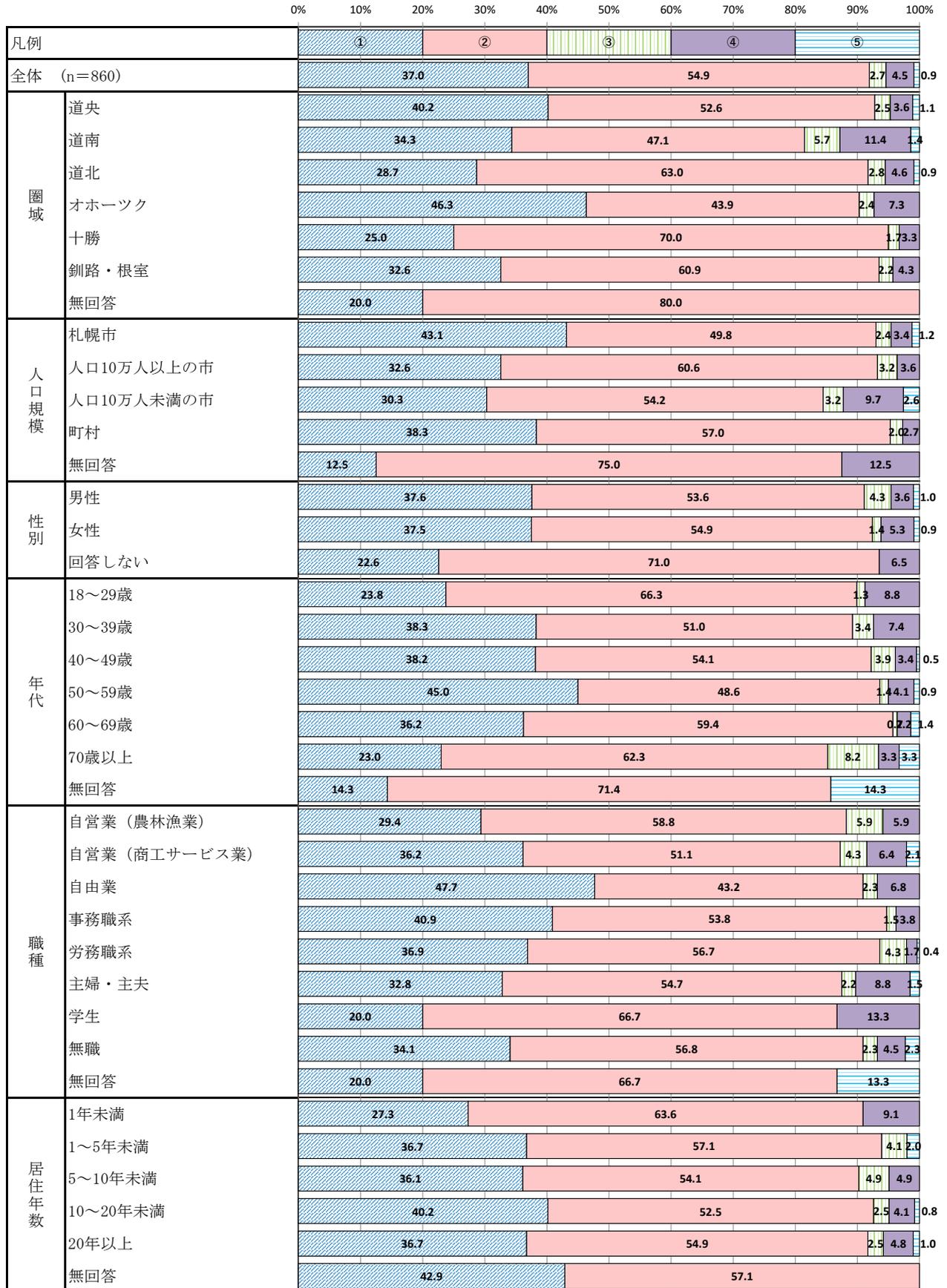
【職種別】

「人間の生活が制約されない程度に、多種多様な動植物が存続できる環境の保全を進める」については、無職(56.8%)が最も割合が高く、次いで労務職系(56.7%)となっている。「人間の生活がある程度制約されても、多種多様な動植物が存続できる環境の保全を優先する」については、自由業(47.7%)が最も割合が高く、次いで事務職系(40.9%)となっている。

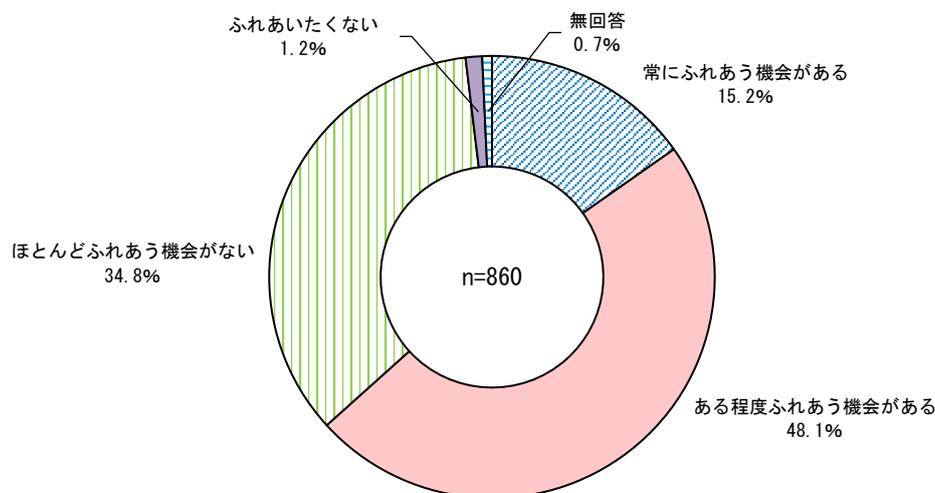
【居住年数別】

「人間の生活が制約されない程度に、多種多様な動植物が存続できる環境の保全を進める」については、1年未満（63.6%）が最も割合が高く、次いで1～5年未満（57.1%）となっている。「人間の生活がある程度制約されても、多種多様な動植物が存続できる環境の保全を優先する」については、10～20年未満（40.2%）が最も割合が高く、次いで1～5年未満と20年以上（36.7%）が同率となっている。

- ①人間の生活がある程度制約されても、多種多様な動植物が存続できる環境の保全を優先する
- ②人間の生活が制約されない程度に、多種多様な動植物が存続できる環境の保全を進める
- ③人間の生活の豊かさや便利さを確保するためには、多種多様な動植物が存続できる環境が失われてもやむを得ない
- ④取組には全く興味がない
- ⑤無回答



問4 あなたは、自然とふれあう機会をどの程度お持ちですか。
次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「ある程度ふれあう機会がある」(48.1%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「ほとんどふれあう機会がない」(34.8%)、「常にふれあう機会がある」(15.2%)の順となっている。

【圏域別】

「ある程度ふれあう機会がある」については、十勝連携地域(51.7%)が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域(51.2%)となっている。「ほとんどふれあう機会がない」については、釧路・根室連携地域(43.5%)が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域(37.0%)となっている。

【人口規模別】

「ある程度ふれあう機会がある」については、人口10万人以上の市(51.1%)が最も割合が高く、次いで町村部(49.7%)となっている。「ほとんどふれあう機会がない」については、札幌市(40.1%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(36.7%)となっている。

【性別】

「ある程度ふれあう機会がある」については、男性50.8%、女性47.1%となっており、「ほとんどふれあう機会がない」については、男性30.2%、女性37.5%となっている。

【年代別】

「ある程度ふれあう機会がある」については、60～69歳(56.5%)が最も割合が高く、次いで70歳以上(55.7%)となっている。「ほとんどふれあう機会がない」については、30～39歳(40.3%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(39.1%)となっている。

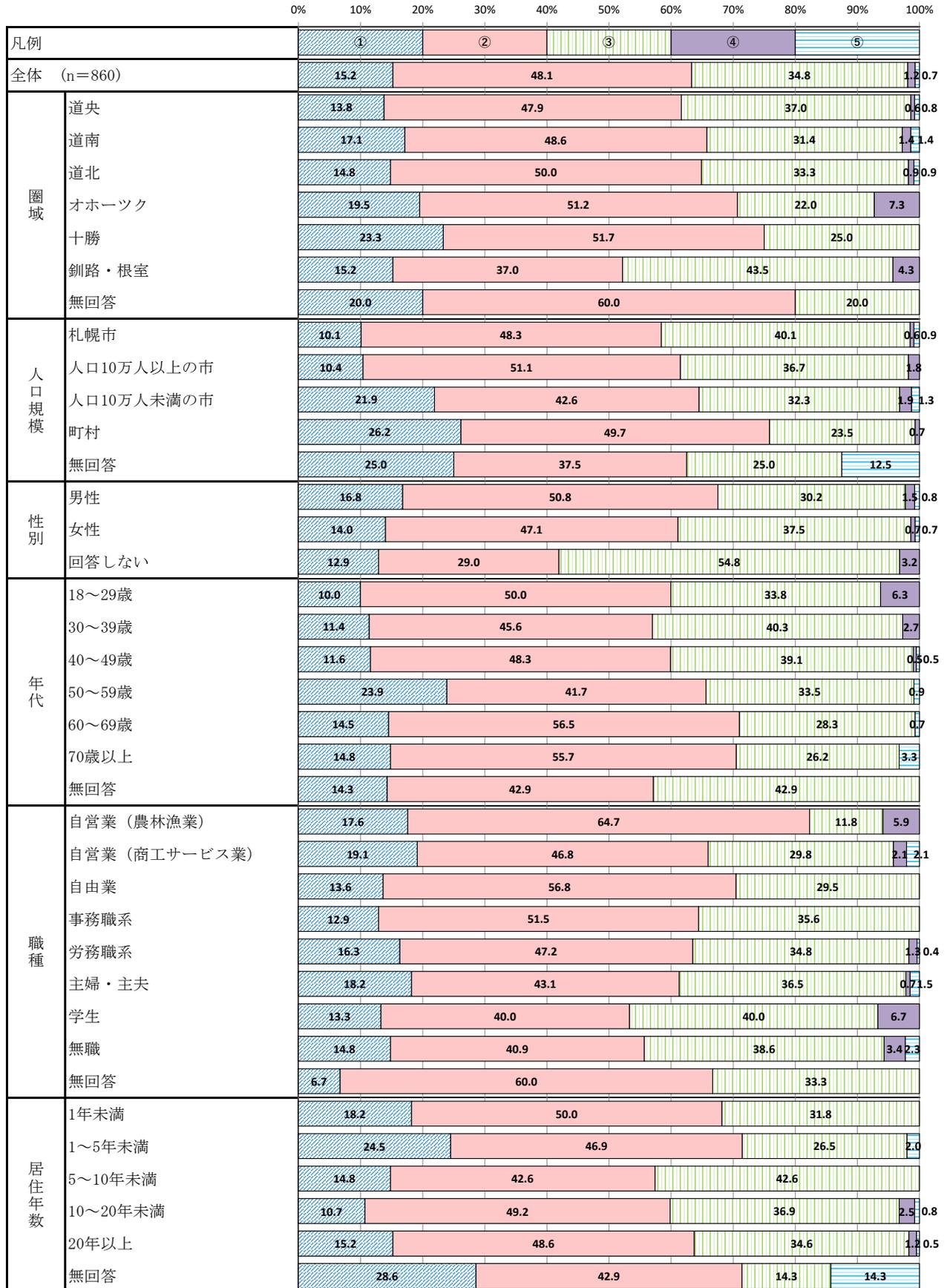
【職種別】

「ある程度ふれあう機会がある」については、自由業(56.8%)が最も割合が高く、次いで事務職系(51.5%)となっている。「ほとんどふれあう機会がない」については、無職(38.6%)が最も割合が高く、次いで主婦・主夫(36.5%)となっている。

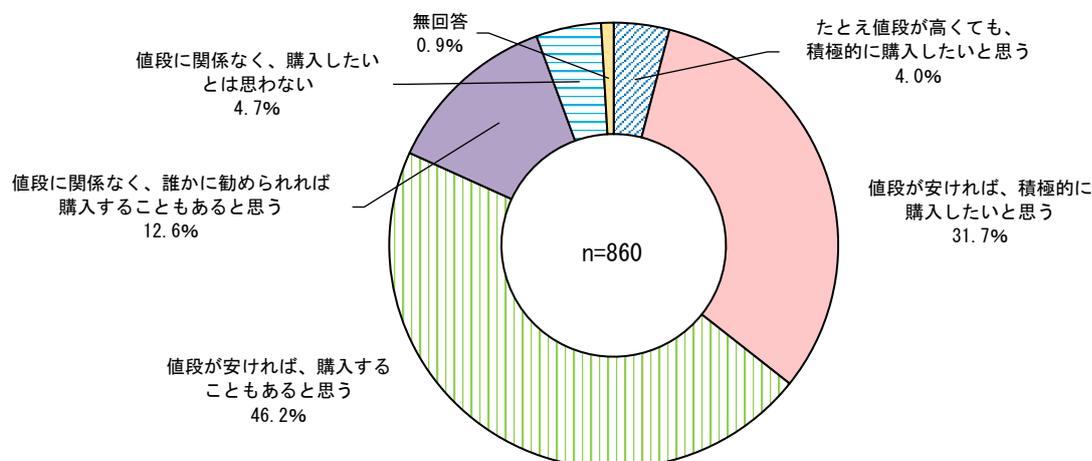
【居住年数別】

「ある程度ふれあう機会がある」については、1年未満(50.0%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(49.2%)となっている。「ほとんどふれあう機会がない」については、5～10年未満(42.6%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(36.9%)となっている。

①常にふれあう機会がある ②ある程度ふれあう機会がある ③ほとんどふれあう機会がない
 ④ふれあいたくない ⑤無回答



問5 あなたは、生物多様性に配慮したことが明記された商品が販売されていた場合、購入したいと思いますか。
次の中から一つだけお選びください。



【全体】

「値段が安ければ、購入することもあると思う」(46.2%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「値段が安ければ、積極的に購入したいと思う」(31.7%)、「値段に関係なく、誰かに勧められれば購入することもあると思う」(12.6%)の順となっている。

【圏域別】

「値段が安ければ、購入することもあると思う」については、道北連携地域(52.8%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(51.7%)となっている。「値段が安ければ、積極的に購入したいと思う」については、オホーツク連携地域(41.5%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(35.0%)となっている。

【人口規模別】

「値段が安ければ、購入することもあると思う」については、人口10万人以上の市(49.8%)が最も割合が高く、次いで町村部(49.7%)となっている。「値段が安ければ、積極的に購入したいと思う」については、町村部(33.6%)が最も割合が高く、次いで札幌市(33.3%)となっている。

【性別】

「値段が安ければ、購入することもあると思う」については、男性43.7%、女性46.9%となっており、「値段が安ければ、積極的に購入したいと思う」については、男性34.0%、女性30.8%となっている。

【年代別】

「値段が安ければ、購入することもあると思う」については、70歳以上(50.8%)が最も割合が高く、次いで18～29歳(50.0%)となっている。「値段が安ければ、積極的に購入したいと思う」については、60～69歳(38.4%)が最も割合が高く、次いで18～29歳(37.5%)となっている。

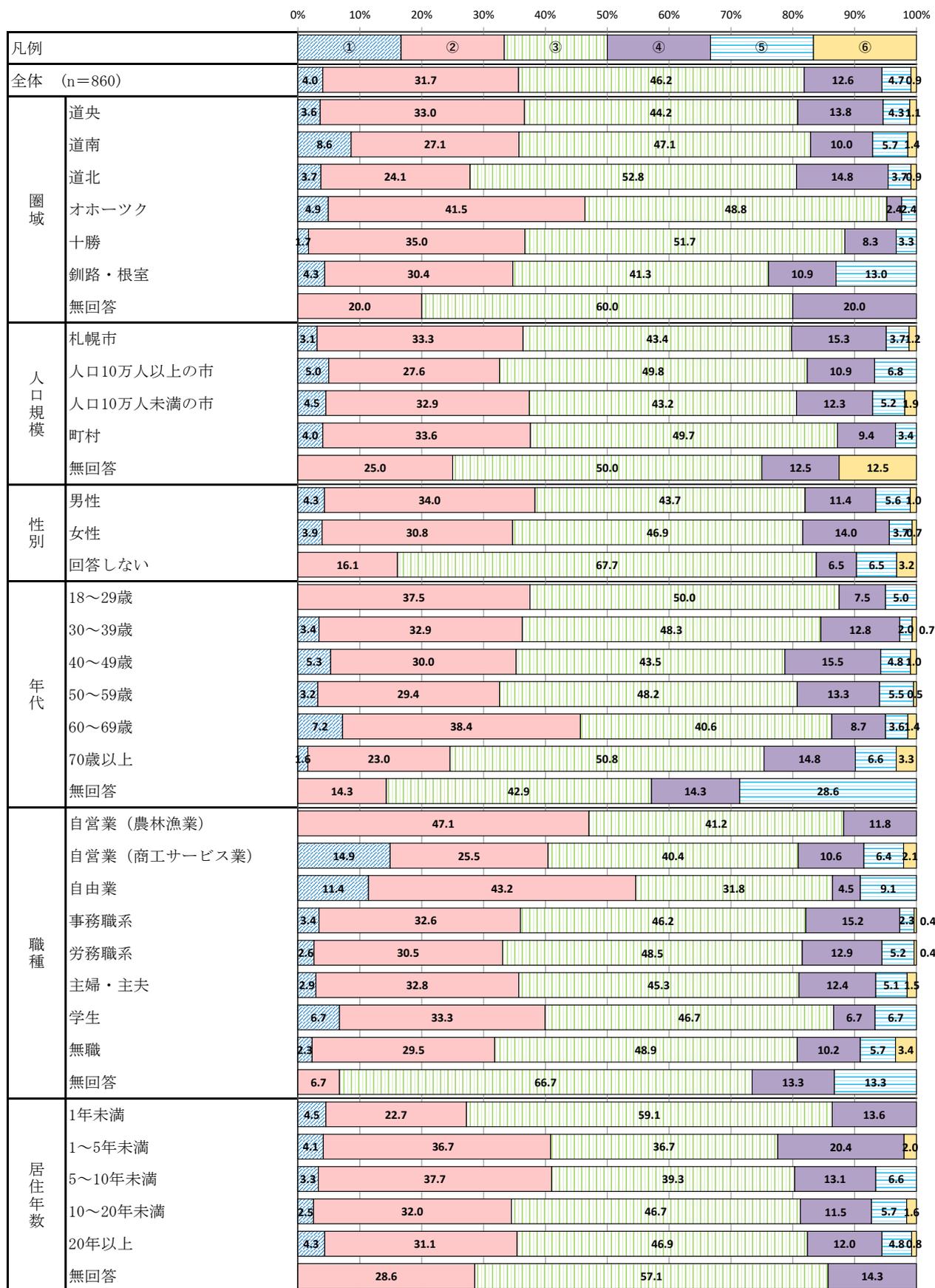
【職種別】

「値段が安ければ、購入することもあると思う」については、無職(48.9%)が最も割合が高く、次いで労務職系(48.5%)となっている。「値段が安ければ、積極的に購入したいと思う」については、自由業(43.2%)が最も割合が高く、次いで主婦・主夫(32.8%)となっている。

【居住年数別】

「値段が安ければ、購入することもあると思う」については、1年未満(59.1%)が最も割合が高く、次いで20年以上(46.9%)となっている。「値段が安ければ、積極的に購入したいと思う」については、5～10年未満(37.7%)が最も割合が高く、次いで1～5年未満(36.7%)となっている。

- ①たとえ値段が高くても、積極的に購入したいと思う
 ②値段が安ければ、積極的に購入したいと思う
 ③値段が安ければ、購入することもあると思う
 ④値段に関係なく、誰かに勧められれば購入することもあると思う
 ⑤値段に関係なく、購入したいとは思わない
 ⑥無回答



「生物多様性の取組について」の調査を終えて

「生物多様性」という言葉の認知度については、「言葉の意味も知らないし、聞いたこともない」との回答が 34.3%と最も多かったが、前回調査と比較すると減少 (R1:35.9%) しており、わずかながら理解が進んでいる傾向が見られた。また、言葉の意味を「知っている」あるいは「ある程度知っている」との回答が合わせて 33.0%に増加 (R1:26.8%) しており、特に 60 歳以上で高い傾向が見られた。

道民が重要と考える生態系サービスについては、植物の CO₂ 吸収や気候を調整する機能が最も高く、次いで森林や湿地の水質浄化・土砂流出を防ぐ機能、各地域で獲れる魚介類・キノコなどの資源の順に高かった。

生物多様性保全の取組に対する考えについては、「人間の生活が制約されない程度に、多種多様な動植物が存続できる環境の保全を進める」と回答された方が半数以上を占めており、若年者層・高齢者層共に高い割合となっている。

自然とふれあう機会については、「ある程度ふれあう機会がある」が最も多く、「常にふれあう機会がある」との回答と合わせると6割を超えた一方、圏域別で見ると釧路・根室が、人口規模別で見ると札幌市が「ほとんどふれあう機会がない」との回答の割合が高かった。

また、生物多様性に配慮した商品の購入については、「値段が安ければ、購入することもあると思う」が最も多く、次いで多い「値段が安ければ、積極的に購入したいと思う」と合わせると約8割となり、価格が購入判断に大きく影響することが示された。

今回の調査結果は、生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する施策の推進を図るために定めた「北海道生物多様性保全計画」(現行計画期間:H22 から概ね 10 年)の変更検討の中で、道民の生物多様性に対する意識の基礎資料として活用するとともに、効果的な普及啓発の取組を進めていく。

(環境生活部自然環境局自然環境課)